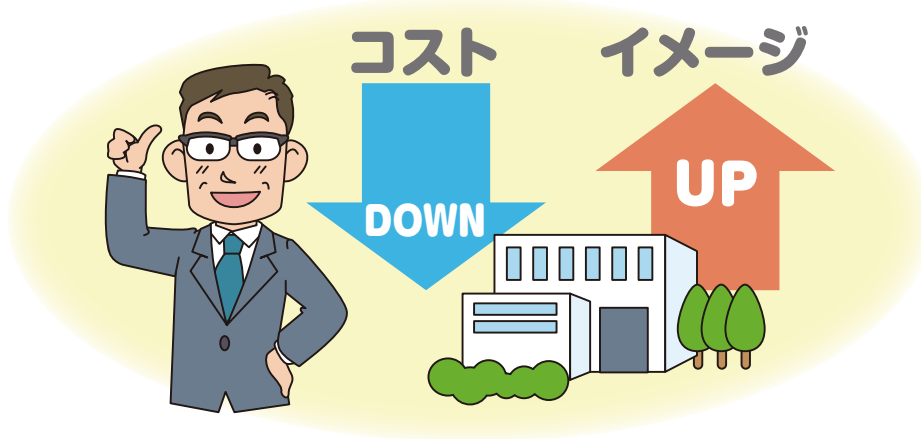


ごみ減量に向けて

1) ごみ減量のメリット

事業系ごみの発生を抑制し再利用を促進することで、処理コストの削減を図ることができます。また、ごみ減量を積極的に取り組むことは事業所のイメージアップにも繋がります。



2) 3Rの推進

循環型社会を形成するための優先順位として、「Reduce（発生抑制）」⇒「Reuse（再利用）」⇒「Recycle（再生利用）」があります。これらの環境活動は、頭文字をとって「3R」と呼ばれ、実践することにより環境への負荷が低減されます。優先順位を意識して、ごみの減量に取り組んでください。

■優先順位

<p>リデュース ① Reduce（発生抑制）</p>	<p>ごみの発生そのものを抑えることで、最も効果的な手段です。 (例)・過剰な包装・梱包を止める。 ・使い捨ての割りばしや紙コップから、繰り返し使える箸や湯飲みに変える。 ・書類の電子化を進める。</p>
<p>リユース ② Reuse（再利用）</p>	<p>一度使用したものを、繰り返し使用することです。 (例)・ファイル等の事務用品を繰り返し使う。</p>
<p>リサイクル ③ Recycle（再生利用）</p>	<p>不要になったものから、新しいものを作り出すために利用することです。 (例)・古紙(書類・雑がみ・ダンボール・シュレッダー紙くず)を古紙リサイクルヤードに出す。</p>

紙ごみのリサイクル率のアップ!

できる限り紙の使用を抑制することができたら、分別しやすいように回収ボックスなどを活用しましょう。

回収ボックスはスペースをとらないものなどを設置すると使いやすいです。

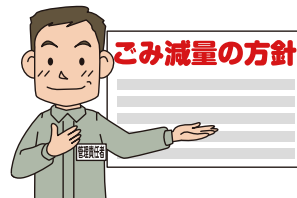


3) 減量を実践するために

減量の実践には、①準備し、②現状を把握し、③計画を立てて、④実行して、最後に⑤見直し、これを何度も繰り返しながら成果を上げていくことが大切です。

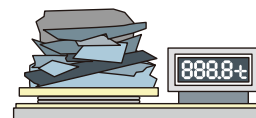
STEP 1 準備する

- 減量を減量するための「方針」を決定して表明する。
- 減量の「管理責任者」を選任するなど体制を整える。



STEP 2 現状把握

- 「ごみの量と種類」を把握する。
- 「ごみの発生源」を把握する。どこで、だれが、どんな理由で発生しているのかを調べることはごみ減量のカギとなります。
- 「ごみや資源物の行き先」を把握する。どの業者を經由して最終的にどう処分されているのか。



STEP 3 計画を立てる

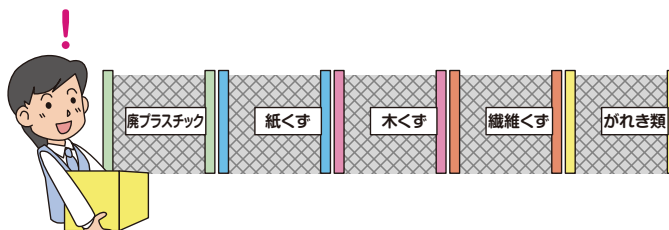
- 現状把握に基づいて、「ごみの減量計画を立てる。」
- 改善のポイントは、①排出量の多いごみの順に取り組む、②減量化やリサイクルが容易なものから取り組む、③法令を守っているか確認するなどがあります。
- 年間の減量目標（減量率）を決める。
- 具体的なシステムを立案する。①分別品目を決定する、②排出方法と保管方法を決定する、③資源回収と収集業者の選定、④再生品の利用などがあります。
- 計画の策定に当たっては、「一般廃棄物の再利用及び減量に関する計画書」などを活用し作成してください。

	廃棄物の発生量 (kg) ^①	再利用率 (kg) ^②	廃棄物の処理量 (kg) ^{①-②}	再資源化率 (%) ^{②÷①}
紙類				
OA用紙等	400	300	100	75.0%
新聞紙	150	150	0	100.0%
ダンボール	300	280	20	93.3%
雑誌	70	60	10	85.7%
精密機器(シュレッダー)	80	40	40	50.5%
その他の紙	15	10	5	66.7%
厨芥類(残飯、生ごみ)	80	20	60	25.0%
商業物等合計				



STEP 4 実行する

- 全員の参加
- 徹底した分別がリサイクルの出発点
- 継続的な啓発活動



STEP 5 見直す



豊橋市ではプラスチックごみ問題への対策として、マイボトル・マイカップの普及に取り組んでおり、マイボトル・マイカップに飲料を提供していただける店舗をホームページ等に掲載し、PRしています。環境政策課（TEL：51-2399）までご連絡ください。